

東京都水道歴史館と東大本郷キャンパスを訪ねて (2018/3/16)

1 班 石谷

午前中に東京都水道歴史館、午後に東大本郷キャンパスを1班活動(9-1 会)で訪ねました。昨日(3/15)までは20℃を超えた5月並みの温かい晴れの日が続き、今日も大丈夫と思いきや、ずーっと小雨でした。5名の参加者の中に、雨〇〇〇が混ざっているらしい。

東京都水道歴史館(<http://www.suidorekishi.jp/about.html>)は、江戸～東京 400 年の大切な水道の歴史と、安全でおいしい水を供給するための水道の技術・設備に関わる展示を、無料で公開している東京都水道局 PR 館です。地下鉄丸の内線本郷三丁目駅からは、徒歩8分でアクセスできます。団体(5 名以上)で見学の場合、事前申し込みで「アテンダントの説明付き」見学ができるのですが、生憎、他団体の申し込みと時間が重なったため、私たちは「音声ガイダンス」を借用しました。

江戸時代の長屋に住む庶民の井戸端会議シーンで出てくる「上水井戸」において、つるべでくみ上げられる水は地下水ではなく、木樋から送られてくる上水なのでした。また、その木樋や継手の組み方・構造など、江戸時代の技術の高さを実物展示で見ることができました。水道の「蛇口」の語源の説明もありました。明治時代になって近代水道が導入されて以降、家まで水道をひけない人たちは、共用栓から出る水を持ち帰って使っていました。その「共用栓(国産)」の吐水口には、龍口がデザインされていました。日本では龍と蛇と混同されており、「龍口」が「蛇口」になったのだそうです。

参考：日本の近代水道が始まった当時は、イギリスから輸入した共用栓を利用しており、その吐水口には欧州の水の神である「ライオンの頭部」(獅子頭)が採用されていたそうです。日本製の共用栓を製作する時に「竜」に替えられたとか。

玉川上水は、江戸時代の承応 2 (1653) 年に羽村(多摩川からの取水口)から四谷大木戸までの上水路(総距離約 43km)が開削され、翌年には江戸市中に通水を開始しました。その玉川上水の歴史や戦後の復興の中で完成した小河内貯水池(奥多摩湖)など、私たちのなじみのある個所の解説・展示もあり、大いに勉強になりました。



図 1 「東京都水道歴史館」の玄関

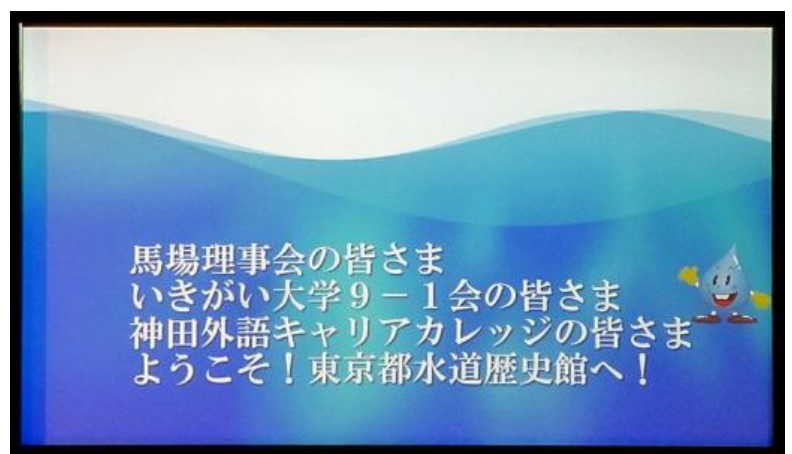


図 2 館の概要説明ビデオの待ち画面：私たち 9-1 会の Welcome メッセージ

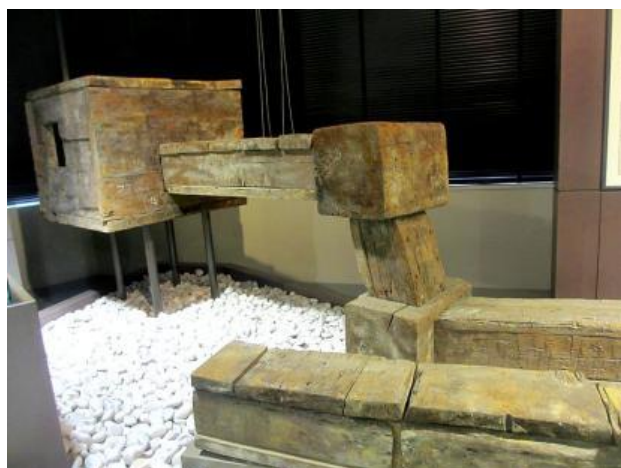


図 3 発掘された木樋の実物展示



図 4 浮世絵：掛樋（かけどい）のある風景



図 5 地震で屈曲、伸び縮みしても抜けない
水道管の接続の説明モデル



図 6 左図の最大口径の管は、2,900mm
あり、日本最大：羽村取水堰から村山・山口
貯水池までの導水管に使われています。

午後は東京都水道歴史館から徒歩で 10 分余りの東京大学本郷キャンパスを散策しました。赤門から入り、近くの医学部研究棟内の「リーズナブルなお値段で気軽にイタリア料理を楽しむ」というレストラン、イタリアン「カポペリカーノ」（ランチタイム 11:00～15:00）でランチを取ることに。棟入り口でレストランのスタンド看板で 13F を確認してエレベータに乗り込みました。乗り込んだのは、私たち Gr のみ。いざ行き先 13F ボタンを押そうとすると、そのボタン横に有るべき案内表示文字が一切無いのである。一方、12F までは全てボタン隣には、大学研究室など案内表記が有りました。乗るべきエレベータを間違えたかと一瞬戸惑いましたが、「行こう行こう」とのメンバーの声。13F に着いてみると、レストラン入り口が左手にあり、正解。入り口で順番待ちリストに名前を書いて、待つこと 10 分余り。テーブル席は更に待つことが要ということで、カウンター席に。ちょうど昼時でしたので 72 席がほぼ満席でにぎやかでした。ワンプレートランチ B セット（本日のリゾット、サラダ、パン）、C セット（本日のお肉料理、サラダ、パン）、いずれの料理にもコーヒー（or 紅茶・ルイボスティ）付き、を美味しく頂きました。カウンター

席前面の窓からは、東京スカイツリーが小雨霽を通して直ぐ近くに見えました。昨日までの晴れ天氣が続かず残念の一言。客の2-3割は、私たちの様な外来客風でした。

ランチ後は、「三四郎池」を探索しました。この池の正式名称は「育徳園心字池」なのですが、夏目漱石の小説「三四郎」以来、三四郎池の名で親しまれています。樹木が鬱蒼と生い茂った窪地の池で、あちらこちらから石畳の階段を下りてたどり着けます。大きなゴツゴツ石が敷かれた狭い凸凹道で池を回れます。窪地であるため、貯水の流れ出る箇所は無いようで、青い溜水状になっていました。水質対策用と思われる4本の太いパイプが木陰に敷設されていました。

池を一回りしたところで隣の東大のシンボルである安田講堂へ。安田講堂が呼び起こす記憶は、1968年（昭和43年）の全学共闘会議によって占拠され最終的には機動隊により強制排除された「東大安田講堂事件」である。すいぶん昔のことだなー。青かったなーあの頃はー。

東大散策を終え、近くのCaféで一息いれて帰路に。



図7 三四郎池

9-1 会は、ほぼ2ヶ月ごとの開催ですが、この間に海外旅行に行った方の土産話を聞いたり、この4月開講の〇〇講座に申し込んだ方の意気軒昂を分けてもらったりで、楽しい活性化された一日となりました。「最近、背が縮んできた」の話題に、多数の同意があり安堵も致しました。



図 8 安田講堂



図 9 安田講堂をバックに